

観光から見る地方創生

システム科学技術学部 経営システム工学科
研究グループ iMokenP 2年 井内康裕 梶谷怜志 坂中勇太 佐藤彩人 田中健太郎
指導教員 嶋崎 真仁

1.当初の研究目的

サービスを開発し地方創生との関連性を明確にする。そして、地域での活性化ができるようなサービスのテンプレートのようなものを開発する。

2.研究目的

地方創生を促す、アプリを開発する。

3.研究内容

①アプリの調査

各SNSの強みを見出すことにより、どのような機能に需要があり、便利かを調べた。

アプリ名	メリット	デメリット	特徴
インスタ (Twitter)	・ユーザー数が多く、投稿がしやすい。 ・連絡コミュニケーションツールとして有用。 ・知名度が高い	・食べ物以外の情報も多数存在している。 ・特定の情報を見つけるのが困難で情報も整っていない。	・現状外食の画像はここに投稿されている
Foodies note	・お気に入りの友達からお店の情報が届く。 ・アルバム機能で写真を楽しめる。 ・特集、トレンド機能がある。	・ユーザー数と、情報が少ない。 ・新規店は登録する必要がある。 ・フレンドがいなくて何もできない	・情報量が少ない。 ・AppStoreのみ
Retty	・ジャンル別検索ができ、投稿に対しコメントができる。 ・情報が多く、食べ物のコラムなども充実している。 ・実名のため信頼度が高い。 ・Facebook連動店をおすすめしている人のコメントが前に来る。	・「地域＋キーワード」で簡単に検索ができない ・タイムラインの整理機能不足がある。 ・食べログと同様で口コミが長い物が多い。	・PC版、スマホ(iOS / android)版有
食べログ	・細かい条件のもと検索(サービス、景色等)ができる。 ・情報量は1番。ネット予約が簡単にでき、採点機能で店のおいしさを数値化している。 ・ランキング機能などで、お店選びには一番適している。	・レビューの信頼度にバラつきがあり、投稿のハードル(文章量、評論形式)が高く、店側からの協力が必要→会員店舗と他店舗との優遇の差が激しい	・ネームバリューは1番

②アプリ（サービス）開発

どのように画面を遷移させるかを決めて、HTML、CSS、JavaScriptで作成した。

4.研究結果

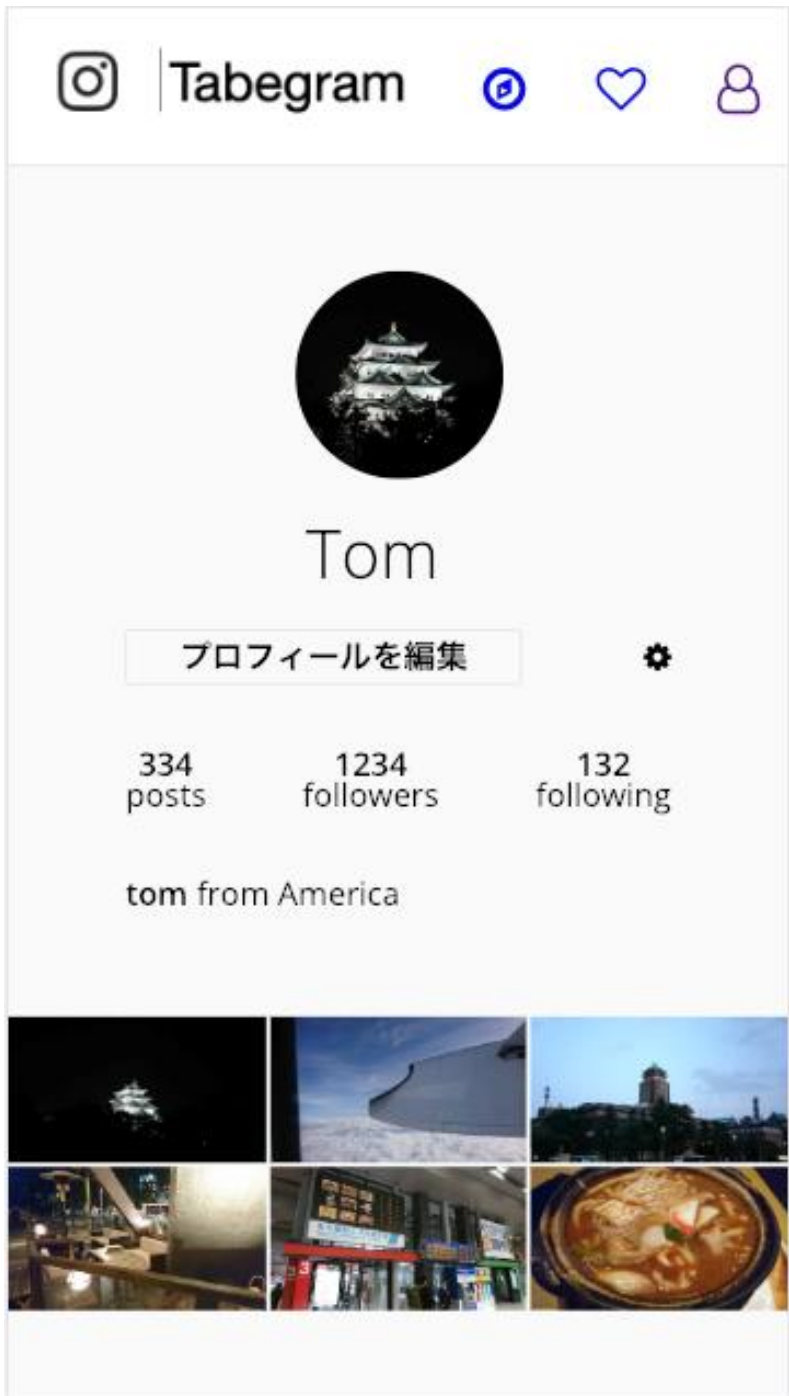


図1 タイムライン 図2 プロフィール

アプリ開発をする上で基盤となるフレームワークを作成した。比較、調査した結果、写真や、口コミの機能は欠かせないと考えられる。また、それぞれに特化した機能やスタイルがあり、ユーザーを確立していると思われる。

5.考察・まとめ

アプリを開発する際に、どのような開発方法が効率的かつ容易かが明らかになった。また、SNSを開発する際の重要な点も明らかになった。まず、他のSNSとの差別化を図ることが重要なことである。差別化された機能は、そのSNSの主軸となりうるので、差別化だけでなくそのアプリの重要なコンセプトとなるという考えに至った。